

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
第1 市民 に対し て提供 するサ ービス その他 の業務 の質の 向上に 関する 目標を 達	1 市民病院としての役割の 明確化	—	—	—	—	—	—				B	B	A	B	B
	(1) 医療機能の明確化	4	4	4	4	4	4	4		<p>(A委員) 急性期から回復期、在宅ケアを網羅する高度な総合的医療を追求しながらも、今期はCOVID-19感染症患者への対応について市民病院としての使命を果たしたことは評価できる。</p> <p>(B委員) パンデミック対策の経験を生かして、いち早く診療態勢を準備し、2019年度末から帰国者・接触者外来を実施し、年度当初からCOVID-19感染症患者の入院を受け入れている。市民病院の果たすべき役割を遺憾なく発揮して、保健所等の関係機関と連携して、その診療の中核的な役割を果たした。</p> <p>(C委員) 明石市内での地域完結型医療を目指し、高度な急性期医療に加えて、地域包括ケア病棟から回復期リハビリテーション病棟へ、そして退院後には訪問看護ステーションの看護師がきめ細かく対応しており、また悪化した場合には入院の早期対応可能なシステムともなっており適正に機能しています。但し、今年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のために、日本の他の公立病院で生じたと同様に感染症に対する医療体制の脆弱さから、急性期医療にはそれ相当の大きな制限が生じています。</p> <p>(D委員) 急性期医療だけでなく、地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟、訪問看護ステーションの運用など、地域医療構想の趣旨を踏まえつつ、COVID-19罹患者対応も行い、機能を明確にして対応できており、「計画を上回る」と評価。</p> <p>(E委員) COVID-19への迅速な対応など地域のインフラとしての公立病院の役割を果たしている。</p>	4	4	4	4	4
	(2) 地域包括ケアシステムにおける機能の強化	4	4	4	4	4	4	4	4	<p>(A委員) 地域包括ケア病棟および回復期リハビリテーション病棟の稼働率はやや減少したものの、新型コロナ蔓延のなか訪問看護・訪問リハの件数が増加したことは評価できる。</p> <p>(B委員) 明石市在宅医療連携(ICT) 72機関の登録、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の運用もコロナ禍の状況下で機能を維持しており、また訪問看護の回数も増やした。</p> <p>(C委員) 地域医療支援病院として在宅医療や介護までが十分可能なように、明石市や医師会とも共同して、また地域の介護事業者も巻き込んで全体として機能させています。COVID-19による非常事態の状態でも、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟および訪問看護ステーションの機能は少し低下したものの、維持はできていたと評価しております。</p> <p>(D委員) 地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟、訪問看護ステーションの運用は前年度並みに維持できており、月平均訪問回数も前年度より増えていることから「計画を上回る」と評価。訪問看護ステーションにおける看護学生の受け入れの記述は、「魅力ある人材育成システム」の実施状況を記述したほうが良いと思います。</p> <p>(E委員) 地域の医療・介護サービスの1番の担い手として体制を組織し運用しており評価できる。</p>	3	3	4	3	3

第2期:地域包括ケアシステムのなかでの役割の明確化

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考					
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
達成 する ため とる べき 措置	(3) 災害及び重大な感染症発生時への対応	5	5	5	5	5	5	5	<p>(A委員) COVID-19感染症の対応として市への協力、市民病院としての対応いずれにおいても十分な対応が出来たと評価できる。</p> <p>(B委員) COVID-19の患者の増加に対応し、日々進化する診療態勢を構築しながら、明石市からの迅速な補正予算を得て、年間439例の入院診療を行っている。時間外緊急時初動マニュアル、早期回復を目的とした事業継続計画を策定し訓練を予定している。</p> <p>(C委員) 今年度はどこの病院においてもCOVID-19にいかに対応したかによって評価されることになると考えています。COVID-19が発生すると同時に、あかし保健所や市の関係機関と密接に連携し、早期に市からの補正予算を得て医療体制の構築が行えています。最初は一病棟をCOVID-19専用病棟として中等症までの患者を診ておりましたが、結果的にはHCUを使用して重症者を最大3人まで対応されたことに対しましては敬意を表します。</p> <p>(D委員) COVID-19罹患者対応の実施や、感染対策室を中心とした週3回の関連部署の情報共有による診療の効率化と院内感染防御対応をしたこと、そのような状況の中、防災対策委員会等が災害発生を想定した時間外緊急時初動対応マニュアル」と「事業継続計画（BCP）」の策定を行ったことから「計画を大幅に上回る」と評価。</p> <p>(E委員) COVID-19への対応を迅速に出来るなど日頃の準備やシミュレーションの成せるものであり評価できる。</p>	3	3	4	3	3

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
第1 市民 対し て 提 供 す る サ ー ビ ス そ の 他 の 業 務	2 高度な総合的医療の推進	—	—	—	—	—	—				A	A	A	A	A
	(1) 急性期医療を中心とした総合的な医療の提供	4	4	4	4	4	4	4	<p>(A委員)手術件数や病床稼働率などの減少がみられるが、COVID-19の影響下ではやむを得ない側面が多い。アフターコロナに向けての対策を考える必要がある。</p> <p>(B委員)総合内科では地域の医療機関から449件の紹介(35名増)ウォークインを含んだ救急患者954件(478名増)循環器内科はDTBガイドラインをクリア。COVID-19の影響下で、慎重な対応や患者の受診控えによる患者数の減少がみられるが、各診療科の手術については、難易度の高い高額手術の割合が維持できている。</p> <p>(C委員)着実に医師の増加が行っていますが、COVID-19診療のために急性期医療の入院患者数では、今年度は前年の2019年度には及んでいません。しかしながら、COVID-19病床を考慮して補正した病床稼働率では80%以上と高い水準を維持しています。</p> <p>(D委員)地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟、訪問看護ステーションの運用は前年度並みに維持でき、月平均訪問回数も前年度より増えていること、COVID-19対応や他の急性期医療も適切に対応され、一部前年より受診者が増えている診療科もある点は評価でき「年度計画を上回る」と評価。小児科の平日および土日の時間外の紹介患者受け入れ実績や専門外来の受診者の実績等も示していただきたい。</p> <p>(E委員)診療科により急性期医療についてはずいぶん差ができたが、コロナ対応を優先した結果であり評価できる。コロナ病床を除いた病床稼働率は2019年度を上回っており、制約の多い環境であったにも関わらず評価できる。</p>	4	4	4	4	4	4
	第2期:急性期医療の総合的な提供														
	(2) 救急医療の推進	3	3	3	3	3	3	3	<p>(A委員)救急患者数、お断り率、市内のシェアなど減少したが、新型コロナ入院受け入れによる影響、また、そもそもの市内の救急件数現象の影響が大きく、止むを得ないと思われる。</p> <p>(B委員)外出自粛により救急件数自体が減少するなか、感染症専用病棟化に伴う一般病床の減少や、COVID-19への対応等により救急受け入れ数が減少したが、明石市内の中等症以上の14.9%の受け入れを実施し、市域の救急医療の一翼を担っている。</p> <p>(C委員)夜間休日応急診療所や医師会と連携し、院内の内科医および外科医各1名が中心となって、継続して市内の救急医療を実施されています。しかし、COVID-19による外出制限から他の公立病院と同じく救急搬送は減少しており、また感染対策による院内体制の制限からお断り率の増加も生じています。COVID-19患者の受け入れでは入院患者439例を受け入れており、地域の基幹病院としての感染症対応は十分にできています。地域の小児科医とはホットラインを結び、対応時間の延長も行き、地域密着型の小児救急医療に尽力されています。</p> <p>(D委員)前年度に比して救急患者の受け入れ数が減り、お断り率は増えているが、COVID-19の流行を踏まえると「年度計画どおり」と評価。</p> <p>(E委員)これまで改善を続けてきた救急のお断り率が悪化しており、コロナ対応との両立が今後は求められる。</p>	4	4	3	4	4	

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考					
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
の 質 の 向 上 に 関 す る 目 標 を 達 成 す る た め と る べ き 措 置	(3) 市と連携した政策医療の充実	4	4	4	4	4	4	4	<p>(A委員) コロナ禍のなか、それ以外の政策医療についても順調に実施できていることは評価できる。</p> <p>(B委員) 救急医療、小児医療、高度医療機器を用いた診断リハビリテーション医療などを着実に実施している。</p> <p>(C委員) 市の政策医療である救急医療、小児医療、高度医療機器を用いた診断、リハビリテーション医療に力を入れており、特にリハビリテーション医療では病院6階東病棟をリハビリ医療に特化して、在宅患者を含めた切れ目のないリハビリ治療を行っています。在宅療養後方支援病院として市関係部署と協力して、在宅患者の適正な入院受け入れやレスパイト入院にも対応しています。訪問看護ステーションを病院内に併設して、医療的ケア児の補助や地域住民の健康対策や診療を受け持っています。自殺未遂により救急搬送された患者に対しては、患者の同意の下にあかし保健所に情報を提供して、市で行うケアや支援を行っていることは特記されるべきことと考えています。</p> <p>(D委員) リハビリテーション医療については、前年度よりも増加しており、「年度計画を上回る」と評価。自殺対策計画にもとづく対応として、市の健康増進課に情報提供を行うことによってその後のケアや支援につなげている実績を示していただきたい。</p> <p>(E委員) コロナ禍においてもリハビリテーション実施単位数が増加するなど市の政策医療の担い手としての役割を果たしている。</p>	3	4	4	3	3

内 容 項 目	令和2事業年度								参 考						
	法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間		
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時	
3 利用者本位の医療サービスの提供	—	—	—	—	—	—				B	B	B	B	B	
(1) 医療における信頼と納得の実現	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) インフォームド・コンセントに際しての多職種の関わりなど順調に充実が図られていると判断できる。 (B委員) 医療サポートセンターを中心として、地域の多職種連携を実施し、入院前から退院後まで包括的に支援をしている。 (D委員) 実績評価がしにくい項目なので、「年度計画どおり」と評価。電カルテリプレイスによる業務効率化と過誤の発生防止に取り組んだとの記載は、可能かどうか分かりませんが、どのように効率化がはかれたのか、過誤の発生防止の結果を示していただけると良いのではないかと。 (E委員) 法人の自己評価の点数が低いのはどこに弱点があるのか。		3	3	3	3	3	
(2) 利用者本位のサービスの向上	4	4	4	4	4	4	4	(A委員) COVID-19感染症への対応に負担がかかるなか、患者サービスの向上に関しても一定の成果が上がっている。 (B委員) サービス向上委員会を開催し、意見箱の改善要望に対応した。また、患者満足度は外来75%、入院87%であり、分析と改善策を検討し実施している。 (D委員) 外来診療案内表示盤や、受付や診察状況を患者に知らせるサービスを導入したことを評価し、「年度計画を上回る」と評価。外国人患者や聴覚障害患者に対する通訳サポートの実績を示していただけると良い。 (E委員) 利用者ニーズを適切にくみ取り対応を推進していることについて評価できる。		3	3	3	3	3	第2期:利用者本位のサービスの推進
4 地域とともに推進する医療の提供	—	—	—	—	—	—				A	A	A	A	A	
(1) 地域医療支援病院としての役割の強化	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 医療提供における多職種の関わりをはじめとして着実に進捗しつつあるが一層の推進を期待したい。 (B委員) COVID-19の取組状況や、意見交換などを通じて医師会との連携を強めた。合同カンファレンス、地域連携フォーラムは見送られたが、連携登録医療機関は311件、紹介率、逆紹介率もほぼ目標値に届いている。 (D委員) COVID-19により、地域連携推進委員会や地域の医療従事者との合同カンファレンス等の開催ができていないが、オープン検査や内視鏡検査の予約受付などは前年度並みであり、連携登録医療機関数も増えていることから、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) 本年度は紹介率、逆紹介率とも悪化したがコロナ禍ではやむを得ないことと思うが、地域の中核医療機関としての役割を担うには重要な指標であるため、引き続き積極的な対応を望む。		4	4	3	4	4	第2期:地域医療支援病院としての役割の推進

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考					
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
市民 対 し て 提 供 す る サ ー ビ ス	(2) 地域社会や地域の諸 団体との交流	4	4	4	4	4	4	4	(A委員) 通常の交流の多くは中止した一方で、新型コロナ対策に関する情報提供を積極的に行ったことは評価できる。 (B委員) 対面する大きな講座や行事は中止したが、動画配信や広報誌、地域連携だよりを発行し積極的に発信し、市民や医療機関に啓発活動を行った。コミュニティセンターにて人数を制限し、13回の「感染症の正しい知識」を発信した。 (D委員) COVID-19により、例年通りのことが行えない中、代替の方法による交流を図っていることから「年度計画を上回る」と評価。 (E委員) (1) と同じ	3	4	4	3	3

内容項目	令和2事業年度								参考					
	法人自己評価	評価委員会評価					委員平均	評価結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時見込	終了時
5 総合力による医療の提供 (1) チーム医療と院内連携の推進 (2) 情報の一元化と共有	—	—	—	—	—	—				B	B	B	B	B
	3	3	3	3	4	3	3	(B委員) 治療とサポートのため、多職種による42の委員会、合同カンファレンス、各病棟への管理栄養士、薬剤師の配置、リンクナースシステムの導入など。 (C委員) 医療においては関連部署間でのコミュニケーションが大切であり、患者情報の共有できる、かつ専門性を発揮可能な多職種によるチーム体制を組み、総合的に対処することができています。病棟においては薬剤師や管理栄養士を配置し、医師および看護師を含めたカンファレンス等を通じて連携して、質の高いチーム医療を行っています。栄養サポートチームでは感染制御チームやリンクナースシステムを利用した効率的な運営を行っています。 (D委員) COVID-19感染対策により会議等も頻回に実施できない状況の中、継続してコミュニケーション良く、様々な活動をされていること、実施状況に記載されていませんが、感染対策室を中心とした週3回の関連部署の情報共有による診療の効率化と院内感染防御対応をしたことは、「年度計画を上回る」と評価。専門チームと病棟看護師を繋ぐ役割をもつ看護師を配置するリンクナースシステムを導入しているとの記載について、各病棟に何人配置できているかなどの実績を示していただくと良い。 (E委員) 各部門が積極的にコミュニケーションをとると内部統制システムも機能すると考えられるため、引き続き推進されたい。	4	3	3	4	4	
	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 一定の進展はみられるものの、さらなる徹底を期待したい。 (B委員) 診療情報、医事情報、財務情報を共有。DPC情報をもとに病床管理業務支援システムで一元管理したリアルタイム情報を多職種で共有。 (C委員) 診療情報、医事情報、財務情報については、事務部が中心になって速報や分析レポートとして作成し、それを通じて職員に情報の共有をさせています。患者サポートセンターではベットコントロール部門があり、病床管理業務支援システムも利用して適正な入院管理が行えています。また、入院患者のサポートや退院調整にも威力を発揮しています。 (D委員) 病床管理業務支援システムで一元管理した情報を多職種で共有できる仕組みを構築し、効率的で有効な情報提供が可能となったとの記載の具体的な内容を記載していただけたら、「年度計画を上回る」という評価でも良いと思いますが、記述されていないので、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) 各部門間での情報共有を引き続き進めて下さい。	3	3	3	3	3	

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考											
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間						
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時					
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するた	6 医療の質の向上	—	—	—	—	—	—				B	B	B	B	B					
	(1) 医療安全や感染防止対策の徹底	4	4	4	4	4	4	4		<p>(A委員) 今期はCOVID-19対策を優先せざるを得なかったと思われるが、それ以外に取り組みも行われている。</p> <p>(B委員) 多職種で構成された医療安全管理室を中心に、毎日インシデントカンファレンスを開催し、職種横断的な改善につながった。医療安全ネットワークで17病院とCOVID-19のオンライン情報共有相互評価を実施。感染症患者専用病棟の業務体制の確立と、ゾーニングの徹底などで、院内感染を最小限に抑え込んだ。</p> <p>(C委員) 医療安全は医療安全管理委員会と院内感染対策委員会が一緒になり、インシデントレポートを基に安全対策が上手く機能しており、医師からのインシデント報告も増加しています。薬剤師を全病棟や手術室は勿論のこと、入退院支援センター、外来化学療法室、透析センターに配置していることはとても素晴らしいことと思います。総合診療支援プラットフォームを導入し、問題となっている画像の脱落としても適正に対応できています。院外との関係として、あかし医療安全ネットワークや地域の感染ネットワークとも十分な連携を行っておられます。看護師が中心になり多職種で連携・協力を行う感染対策室のチーム医療にて、COVID-19に対してゾーニングの設定、個人防護具の対応、標準予防策を徹底し、常に院内感染の防止に努めており、一部職員のCOVID-19発生はありましたが、診療に大きな影響を及ぼすCOVID-19のクラスター発生は生じていません。</p> <p>(D委員) インシデントカンファレンスを毎日開催し、ヒアリング・分析・対策を検討していることの効果が不明。2011件の報告をどう評価するのか？感染防止対策は徹底されていることを評価し、「年度計画を上回る」と評価。</p>						4	4	4	4	4
	(2) 質の向上のための取組の強化	4	4	4	4	4	4	4	4	<p>(A委員) 質の向上に向けて「多職種の関わり」および「文書の共有」などを重視していることは高く評価できる。ただし効果が出るまでには時間がかかることから長期的な取り組みを期待したい。</p> <p>(B委員) ISO9001の認証継続、内部監査で他部門の業務を互いに確認改善を継続。クリニカルパス適用率35%、パス数の向上やパス作成促進のための診療プロセス改善に向け準備を進めている。</p> <p>(C委員) QT手法によるTQMの推進、ISO9001の認証継続、学習や研究活動の支援にて診療の質の改善と人材の育成に努めておられます。多職種構成による品質管理室は、業務の標準化、規定やマニュアルの改訂、クリニカルパスでの診療プロセスの改善準備に努めておられます。また、内部監査として相互チェックを行っています。</p> <p>(D委員) 文書管理の整備がなされたことを評価し、「年度計画を上回る」と評価。</p>								第2期:継続的な取り組みによる質の向上		

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	年度評価結果			第2期中期目標期間		
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			H29	H30	R1	終了時 見込	終了時	
ためとるべき措置	(3) コンプライアンス（法令・行動規範の遵守）の強化	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)一定の取り組みはなされているが、本項目に関しては形式よりも実質が重視されるべきことから、引き続き努力されたい。 (B委員)倫理委員会が10案件を審議した。内部通報は本年度0件。監事の弁護士の協力のもと内部統制システムを導入。 (C委員)行動規範や医療倫理では、関連する委員会を開催して情報を共有し、法令や内部規定の遵守と病院全体としてその醸成に取り組むことが行われています。COVID-19の影響にて全ては行えていないようですが、できる範囲で適正な対応ができています。 (D委員)内部統制委員会を年5回開催し適切に対処していることから、「年度計画どおり」と評価。個人情報保護管理委員会における自己点検結果の問題点や課題が何かも記述していただけると良かった。 (E委員)内部通報は本年度0件であるが実効性のあるものになっているのか継続的にフォローすること。	3	2	3	3	2	第2期:コンプライアンス(法令・行動規範の遵守)の徹底

内容項目	令和2事業年度								参考					
	法人自己評価	評価委員会評価					委員平均	評価結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時見込	終了時
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	1 医療職が集まり成長する人材マネジメント	—	—	—	—	—	—			A	B	B	A	B
	(1) 必要な医療職の確保	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 医師数が増加するとともに、看護師もコロナ禍で採用活動に制約があるなか概ね順調に採用できている。引き続き人材の質も考慮しながら努力を続けていただきたい。 (B委員) 総合内科、消化器内科、腎臓内科、整形外科、放射線科などの医師確保ができ、診療体制が整ってきた。医師就学等資金貸与を再開している。看護師については、きめ細かいサポートによりCOVID-19による退職はなし。医師、看護師のワークライフバランスを推進している。 (D委員) 年度計画どおり人材確保できている。 (E委員) 医療職の確保と優秀な人材の引き留めには、残業の問題を含め職場環境の更なる改善が必要と考える。	4	3	3	4	3
	(2) 魅力ある人材育成システム	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 研修医、新人看護師、事務系管理職(候補)など中心に教育が行われているが、それ以外、すなわち一般医師、中堅以上看護師、コメディカル、一般事務職などの研修についても充実いただきたい。 (B委員) 医師初期臨床研修プログラムの充実、新任看護職員卒後研修プログラムにより能力向上に努めている。病院経営については職員に対して医療政策や病院経営などの学習の機会を与え、人材の育成に取り組んでいる。 (D委員) 年度計画どおり人材育成できている。 (E委員) (1)と同じ。	3	3	3	3	3
	2 経営管理機能の充実	—	—	—	—	—	—			B	B	B	B	B
	(1) 役員の責務	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 「理事会」や「経営戦略会議」ではなく、「個々の役員の責務」をいかに認識し遂行するかがこの項目の趣旨。现阶段で特段の問題はないと思うがこの趣旨でのレベルアップを期待したい。 (B委員) 常勤役員、副院長がそれぞれの院内委員会を統括指揮し、情報提供や課題の改善に取り組んでいる。経営戦略会議を年度中17回開催。直面する経営課題に取り組んでいる。 (D委員) 経営戦略会議は定期的で開催され「年度計画どおり」と評価。MBA取得は役員の責務にあたるのか疑問。役員が積極的な自己研鑽に努めたことを記載するのであれば、各々の役割における自己研鑽を記載する必要があるのでは。 (E委員) 理事会や経営戦略会議において、より活発な意見を議論するには外部役員を招くことに賛成である。(本年度1名) 今後も積極的に対応しガバナンスの観点からも外部役員の比率を高めることを検討されたい。	3	3	3	3	3
(2) 管理運営体制の充実	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 色々努力はされていると思うが、BSCや内部統制に関する記述が少し曖昧か。具体的に何をを行い、どんな成果が期待できるかが不明瞭。 (D委員) 運営会議を定期的で開催し、「年度計画どおり」と評価。診療科長のマネジメントの実践状況、人事評価とBSCの運用の切り離しによる部門長のリーダーシップの発揮状況などの記述があると良い。 (E委員) 管理運営体制を中間管理職のマネジメント能力に委ねるためには現状の問題点をトップが整理することが必要である。内部統制システムもそのことがあって初めて機能する。トップには内部統制システムを整備・運用する責任がある。	3	3	3	3	3	第2期:管理運営体制の強化

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考							
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	年度評価結果			第2期中期目標期間			
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員			H29	H30	R1	終了時 見込	終了時		
	(3) 事務職の育成の推進	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 事務職のプロパー化が進み各課(室)の専門性が向上しつつあることは評価できる。一方で、背景が異なる職員が集まることから、今後は共通の価値観の醸成が重要になる。 (D委員) 対面式の研修をオンライン研修ツールを活用した研修の実施や、戦略的な人事異動を行っていることから、「年度計画どおり」と評価。研修や人事異動に対する評価も記載していただけるとよい。 (E委員) コロナ禍で研修のあり方もオンラインが主流になるなどずいぶん変化した。事務系は特に経験が必要であるため研修や他病院視察は有効である。	3	3	3	3	3	第2期:事務職の役割の明確化と専門性の向上	

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
第2 業務 運営 の 改善 及び 効率 化に 関す る目 標を 達成 する ため とる べき 措置	3 構造改革の推進	—	—	—	—	—	—				A	B	B	A	B
	(1) 組織風土の改革	3	3	3	3	4	3	3	(D委員) 勉強会の実施や、昨年度実施していない成果発表なども取り組んでおり、「年度計画を上回る」と評価 (E委員) 医療職、事務職の方々の職業上のプロ意識の高さは他の民間企業ではなかなかお目にかかれないレベルだと思う。むしろ法人としての目標よりビジョンを末端にまで共有することが必要である。	4	3	3	4	3	
	(2) 人事評価制度の運用	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) この項目も少し言葉足らずと思われる。「何故」BSCと人事評価を切り離れたのかなど。 (D委員) 具体的な取り組み内容の記述がないので、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) 法人自己評価を読む限りにおいて、なかなか本格運用に至っていないと思う。公正で客観的な人事評価は組織の活性化に繋がるため引き続き対応を求める。	3	3	3	3	3	第2期:人事給与制度の整備
	(3) 労働生産性の向上	3	3	3	3	4	3	3	(A委員) 今期は新型コロナの制約があったものの諸対策が講じられている。ただし病院経営にとって生産性の向上は永遠の課題でありさらなる徹底を期待したい。 (D委員) TQM委員会を組織して活動していること、電子カルテのリプレイスやサーモグラフィや紫外線照射ロボットの導入や業者委託など医療職の負担軽減を図るなどしていることから、「年度計画を上回る」と評価 (E委員) 医療に限らず我国の労働生産性の低さの要因は価格が上がらないことが理由だと聞く。特に医療はそうした傾向が強いと思うが、業務の効率化により相当部分改善するはずである。引き続きの対応を求める。	4	3	3	4	4	第2期:購買・契約制度の改変

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考									
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間				
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時			
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	1 業績管理の徹底	—	—	—	—	—	—				A	B	B	A	B			
	(1) 診療実績の向上による収入の確保	3	3	3	3	3	3	3		(A委員) 医業収益は減少しているがコロナ禍のなかでは止むを得ない。 (B委員) COVID-19の影響下で外来患者、入院患者ともに減少するなか、明石市唯一の入院受入機関として、その任務を果たし、市民に貢献した。その中で、重症度の高い患者を優先し、入院単価を1,000円以上増加させた。診療報酬改定に即時対応し、地域医療体制確保加算の算定など増収を図った。 (D委員) COVID-19の影響を受けている現状から、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) 入院や外来収益の減少はコロナ禍においてはやむを得ない。「地域医療体制確保加算」などの新設項目に対して迅速に対応できたことなどは積極的に評価して良いと思う。 ただ、査定率が横ばいであったことと未収金の発生割合も低くなっているとは言えない。特に税の投入を受けている以上は未収金を減らす仕組みの検討は必要である。				4	3	3	4	4
	(2) 支出管理などによる経費削減	3	3	3	3	3	3	3		(A委員) 医業収益比で増加している費用が多いが、これもコロナ禍で止むを得ない範囲にとどまっていると思われる。 (B委員) 人件費対医業収益比率は目標値を達成できなかったが、材料費、経費比率はほぼ目標値に近い。 (D委員) COVID-19の影響を受けている現状から、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) 材料費、経費、人件費の医業収益比率は全て悪化している。しかしながら今年度に関しては単純な前期比較や予算比較が意味があるのかも不明である。法人の自己評価にも記載があるが、コロナ収束後を念頭に効率的な運営方法を練っていくことが重要である。				3	3	3	3	3
	新 (3) 原価計算の活用	3	3	3	3	3	3	3		(A委員) コロナによる収支への影響が少し不明瞭であった。コロナが続いている21年度もより改善を望みたい。これが将来的に採算医療と不採算医療(政策医療)の識別にもつながる。 (D委員) 診療実績と人件費の変遷をまとめた収支実績を算出し、各診療科とのヒアリングに利用したとあり、どのように利用したのか不明なので、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) コロナ禍においては原価管理の重要性がより高まったはずである。しかしながら現状の法人自己評価からはそうしたことが読み取れない。不採算医療を可能な限り圧縮して市による運営費負担金を減らし独法の意義を明確にすることが重要である。						3		

内 容 項 目		令和2事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H29	H30	R1	終了時 見込	終了時
第3 財務 内容 の改 善に 関す る目 標を 達成 する ため とる べき 措置	2 安定した経営基盤の確立	—	—	—	—	—	—				B	B	B	B	B
	(1) 収支の改善	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 多額のコロナ補助金による収支改善のため評価不可能。あくまで結果論だが経常収支改善のため3評価にした。もしコロナ受け入れなし(空床補償等なし)などのような結果になったかなどのシミュレーションも行うべき。 (B委員) 感染症患者専用病棟への置き換えに伴う休床、空床により、医業収益が大きく減少したが、市の素早い補正予算による感染症対策経費の助成や、国、県からの病床確保に伴う補助金などが大きく経常収支に貢献した。 (D委員) COVID-19の影響を受けている現状から、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) コロナ関連の補助金合計額は1,364百万円、このうち固定資産取得に充てた分は120百万円、人件費は186百万円、その他の経費分は52百万円である。つまり差引1,006百万円は利益のカサ上げ部分である。 この部分は医療収入と医療原価との明確な対応関係が認められず最終利益や資金残高の増加という結果のみで運営の効率化を評価することは出来ない。 他方、結果として大幅な資金増を確保出来たことは経営基盤の安定にはつながることから評価出来る。	4	3	3	4	4	第2期:経常収支の改善
	(2) 計画的な投資	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) コロナの影響で建替えの検討が遅れているもののそろそろ再開すべき。その際、アフターコロナの医療提供体制について十分検討が必要。 (D委員) COVID-19の影響を受けている現状、電カルテリプレイスがスケジュール通り完了できたことから、「年度計画どおり」と評価。 (E委員) COVID-19への対応により得たものは大きく、今後はこれにより得たノウハウを投資計画に反映させるべくあるべき市民病院の姿をビジョンをもって市民に対して示していくことが必要である。 まだまだ目下の感染症への対応が必要な状況であると思うが先延ばしすることなく議論を開始すべきである。	3	3	3	3	3	第2期:資金収支の改善と計画的な投資